

2021年7月1日

登録会員各位

東京 2020 パラリンピック競技大会の日本代表推薦選手の選考基準における
選考対象条件のクラスステータスの変更について

一般社団法人日本パラ陸上競技連盟

一般社団法人日本パラ陸上競技連盟(以下本連盟)は、2021年6月23日に World Para Athletics (以下 WPA) より東京 2020 パラリンピック競技大会(以下東京 2020 パラ大会)でのクラス分けの実施の連絡が届いたことに伴い、2020年10月9日公表した「東京 2020 パラリンピック競技大会の日本代表推薦選手の選考基準(第3版)」(以下選手選考基準)の内容を一部改定して、下記のとおり選考委員会において選手選考を行い、理事会で承認し日本パラリンピック委員会(以下 JPC)へ推薦いたします。

変更の背景と経緯

パラリンピック競技において、クラス分けは選手の参加資格を定義する根幹となるシステムです。このクラス分けの判定次第でその選手・チームの競技力や順位、そもそもの参加の可否が大きく影響すること、クラス分けは身体機能評価、技術評価、競技観察の3段階からなり、特に競技観察のある肢体不自由並びに知的障がいクラスは競技開始前にクラスを確定することができないことから、国際パラリンピック委員会(以下 IPC)はパラリンピック競技大会において「ゼロ・クラシフィケーション」ポリシーのもと、クラス分けは実施せず、各国からの選手エントリーの際に、大会で有効なクラスステータスを有する選手であることが必須条件としていました。そのため、「Tokyo 2020 Qualification Criteria」において、陸上競技での選手の必須参加条件として、エントリーの時点でクラスステータスは“Confirmed”もしくは2021年12月31日以後でも有効な“Review”(すなわち2022年以降の“FRD”)と明記されておりました。これを根拠として、本連盟の選手選考基準でもこのクラスステータスを所持することを選考対象条件としておりました。

しかしながら昨今の COVID-19 パンデミックによる東京 2020 パラ大会の1年延期や、国際クラス分けを実施するための大会開催や国をまたぐ選手団の移動に大きな制限がかかり、選手のクラス分けが適切に運営されていない状況から、東京 2020 パラ大会での「ゼロ・クラシフィケーション」を必ずしも原則としない方向に IPC は方針を変更しています。こ

れに合わせ、2021年6月23日に、WPAより各NPCに肢体不自由および知的障がい
のクラス分けを東京2020パラ大会に実施することで案内がなされました*。すなわち、前述の
東京2020パラ大会での陸上競技における選手の必須参加条件にて、必ずしも有効なクラス
ステータスを求めないこととなります。そこで本連盟の選手選考基準においても選考対象
条件1.3を以下の通りに変更いたします。

なお、NewおよびNE Confirmedの選手については、実施種目エントリー標準記録
を有さないことから、引き続き選考対象外とします。

※) 視覚障がいについての実施は現時点で未確定とのことです。

変更内容

変更前)

1. 選考対象条件
- 3) World Para Athletics(以下 WPA)の国際競技クラスが確定し、国際競技クラスステ
ータス “New”、“Review”、“Confirmed”のうち、“Confirmed”もしくは“Review”
であること。ただし”Review”の場合は、JPC への推薦およびエントリー等の手続き
までに、Fix Review Date で2021年12月31日以降 (FRD2022) であること。

↓

変更後)

1. 選考対象条件
- 3) World Para Athletics(以下 WPA)の国際競技クラスが確定し、国際競技クラスステ
ータス “New”、“Review”、“Confirmed”のうち、“Confirmed”もしくは“Review”
であること。

以上